

短報

2015年秋にセンサーカメラが自動記録した岡山理科大学の哺乳類相

櫻庭知帆¹

The mammal fauna recorded by automatic trail cameras in autumn
2015 in the Okayama University of Science

Chiho SAKURABA¹

Abstract: Between 7 October and 15 December 2015, 25 automatic trail cameras were set targeting Japanese badgers (*Meles anakuma*) on the campus of Okayama University of Science. As a byproduct, the cameras recorded other mammal species there as follows: the boar (*Sus scrofa*), domestic cat (*Felis silvestris catus*), Japanese red fox (*Vulpes vulpes japonica*), Japanese raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*), Japanese marten (*Martes melampus melampus*), Siberian weasel (*Mustela sibirica*), and large Japanese field mouse (*Apodemus speciosus*). The last four species went in and out some badger setts. The fox, raccoon dog, boar, and field mouse rapidly increased their relative incidence after October 20, likely indicating their seasonal entry into the campus.

はじめに

岡山理科大学は、山野と市街地の中間部に位置しており、敷地内には野生動物のエサとなりえるカキやヤマモモをはじめとする多くの樹木が生えている。そのため、大学構内でイノシシやアナグマといった野生動物が目撃されることも珍しくはない(櫻庭 2016)。しかし、これらの野生哺乳動物の生息についての学術報告は、大学構内に定住しているニホンアナグマに関するもの(Sakuraba et al. 2016)と、隣接するダイミ山で目撃されたニホンジカに関するもの(清家ら 2014)しかない。

岡山理科大学構内に生息するニホンアナグマの研究を行うにあたり、計25個の赤外線センサーカメラを2015年10月7日から12月15日までの10週間設置し、映像を記録した。その結果、アナグマだけでなく他の7種の哺乳動物の姿も確認することができたので報告する。

調査地

調査地は、岡山県岡山市北区理大町に位置する岡山理科大学の附属中学校・高等学校の敷地を除いた全域である(北緯34.696222°, 東経133.925953°)。また、岡山理科大学はダイミ山(標高最高点160.35m)の東側に位置し、建物間の斜面は、落葉性のコナラ(*Quercus serrata*)やアベマキ(*Quercus variabilis*)で構成された二次林や、やや遷移の進んだ常緑のアラカシ(*Quercus glauca*)・ナナミノキ(*Ilex chinensis*)からなる林分などに覆われている(Sakuraba et al. 2016)。

岡山市内に生息している哺乳動物

「平成27年度岡山市鳥獣被害防止計画」(岡山市2015)によると、現在岡山市内ではニホンイノシシ(*Sus scrofa leucomystax*)・ヌートリア(*Myocastor coypus*)・タヌキ(*Nyctereutes procyonoides*)・アナグマ(*Meles anakuma*)・アライグマ(*Procyon lotor*)・

1. 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学理学部動物学科 Department of Zoology, Faculty of Science, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.

ハクビシン (*Paguma larvata*) ・ニホンジカ (*Cervus nippon nippon*) ・ニホンザル (*Macaca fuscata*) ・ノウサギ (*Lepus brachyurus*) の哺乳類 9 種と鳥類 17 種が鳥獣被害防止計画の対象とされている。また、これらの他にもヒミズ (*Urotrichus talpoides*) ・コウベモグラ (*Mogera wogura kobeae*) ・キクガシラコウモリ (*Rhinolophus ferrumequinum*) ・コキクガシラコウモリ (*Rhinolophus cornutus*) ・モモジロコウモリ (*Myotis macrodactylus*) ・アブラコウモリ (*Pipistellus abramus*) ・ヒナコウモリ (*Vespertilio sinensis*) ・ユビナガコウモリ (*Miniopterus fuliginosus*) ・コテングコウモリ (*Murina ussuriensis*) ・ニホンリス (*Sciurus lis*) ・ムササビ (*Petaurista leucogenys*) ・カヤネズミ (*Micromys minutus*) ・ホンドギツネ (*Vulpes vulpes japonica*) ・テン (*Martes melampus*) ・イタチ (*Mustela itatsi*) ・チョウセンイタチ (*Mustela sibirica coreana*) の生息も報告されている (江木ら 2011)。

調査方法

大学構内は、多数のさまざまな人々が往来する場所であって、カメラの設置場所を公開した場合、生息動物の生活に重大な影響を与えかねない。そこで、設置場所の選定にあたって考慮した条件を列記するととどめ、実際の設置場所の地図上での公開は割愛する。選定した設置場所は、次のようなところである。(1) 獣道。(2) アナグマ等の巣穴の出入口付近。これらの点を考慮し、1号館・7号館・14号館・15号館・21号館・24号館・保存棟を中心に計25台のセンサーカメラ (BMC製SG968K-10M・Bushnell製Mu7Dq4438・Keep Guard製KG-680V) を設置し、映像記録を行った。このうち、1号館裏のフェンス下獣道・7号館横の林・28号館北側の林は、隣接する三軒家自衛隊駐屯地との境界線で、これらの場所を通過することによって大学構内への侵入が可能となる。調査期間は10月7日から12月15日までの10週間であり、動画の長さは10秒から60秒までカメラの性能によりさまざまである。



図1. ニホンアナグマ。日時：2015年12月1日，21時56分。



図2. イエネコ。日時：2015年11月26日，23時03分。

確認された哺乳動物

生息が確認されたのは、ニホンアナグマ (図1) ・イエネコ (*Felis silvestris catus*, 図2) ・ニホンイノシシ (図3) ・ホンドタヌキ (図4) ・テン (図5) ・ホンドギツネ (図6) ・チョウセンイタチ (図7) ・アカネズミ (*Apodemus speciosus*, 図8) の8種である。この他にネズミ目の動画が7本あったが、同定を行うのは困難であった。

季節的変動

キツネ・タヌキ・テン・イノシシ・ネズミの姿は撮影開始からしばらくの間は確認することができなかった。しかし、10月20日以降にはいずれも複数回の撮影記録があり、この頃に大学構内に入出入りする頻度が上昇したことがわかる。調査地およびその周辺の詳細な環境調査を行っていないため、この季節的変動の原因を特定することはできない。



図3. ニホンイノシシ. 日時：2015年10月27日，21時31分.



図6. ホンドギツネ. 日時：2015年12月15日，18時45分.



図4. ホンドタヌキ. 日時：2015年11月17日，6時28分.



図7. チョウセンイタチ. 日時：2015年10月15日，20時21分



図5. ホンドテン. 日時：2015年11月5日，0時48分.



図8. アカネズミ. 日時：2015年10月22日，0時31分

これまでも哺乳動物の季節的な移動に関する研究報告は多くあり，それらの要因はさまざまであった．Dardaillon(1986)によると，イノシシは狩猟回避や分娩のための保護地の有無・土壌の水分状態・食物入手可能性などを考慮して各季節の生息場所を選択しているという．また，メスのエゾシカの移動要因としては，積雪状況や冬期のエサ資源であるササの入手可能性・降雪からシカを守るシェルターの

役割をもつ常緑針葉樹林が挙げられていた(Igota et al. 2004)．

アナグマの泊まり場の二次利用

タヌキ・テン・イタチ・アカネズミの4種はアナグマの巣穴に出入りする姿が撮影された．これらの動物はアナグマの巣穴を住处もしくは通路として利用していた可能性が高い．他種の利用が確認され

た巣穴のうち、タヌキとイタチの出入りがみられたのはアナグマ自身が掘った巣穴ではなく、側溝を巣穴のように利用していたものであった。しかし、この側溝はアナグマが利用していない期間には雑草や落葉で入口が塞がっていたため、アナグマが利用することによって他種の利用も可能になったと考えられる。アナグマと同一の巣穴を異なる時期に利用していた種としては、これまでにタヌキ・キツネ・ハクビシンなどが報告されている(金子 2002, 高槻ら 2008)。

総括

岡山理科大学構内には、アナグマを含めて少なくとも8種の哺乳動物が出入りしていた。これらの動物は大学構内に定住しているものと、季節的な移動先として一時的に構内を利用しているものの二通りに分類できる。定住者として挙げられるのはアナグマ・イタチ・ネコの3種であり、その他のキツネ・タヌキ・イノシシ・テン・ネズミに関しては一時的な生息もしくは侵入であるとみられる。しかし、今回の調査では通年的な調査は行えなかったため、この季節的な変動について現時点では断言できなかった。これらの動物の季節的な変動を確認するためにも、1年を通じた映像記録を行うことは今後の課題である。また、アナグマはさまざまな哺乳動物に住処や通路を提供することがわかった。

謝辞

本研究を形にすることができたのは、元岡山理科大学の城ヶ原貴通先生と岡山理科大学の小林秀司先生・高崎浩幸先生のご助言とご協力のおかげです。ここに深く感謝の意を表します。

引用文献

Dardaillon, M. (1986). Seasonal variations in habitat selection and spatial distribution of wild boar (*Sus Scrofa*)

in the Camargue, Southern France. *Behavioural Processes* 13: 251-268.

江木寿男・山田 勝・徳田展成・山本 幸(2011). 岡山県における哺乳類の観察記録と分布状況について. 岡山県自然保護センター研究報告 Bull. Okayama Pref. Nature Conservation Center (18): 1-35.

Igota, H., Sakuragi, M., Uno, H., Kaji, K., Kaneko, M., Akamatsu, R., Maekawa, K. (2004). Seasonal migration patterns of female sika deer in eastern Hokkaido, Japan. *Ecological Research* 19: 169-178.

金子弥生(2002). 日の出町のアナグマの行動圏の内部構造. 日本生態学会誌 52: 243-252.

岡山市(2015). 岡山市鳥獣被害防止計画. (<http://www.city.okayama.jp/contents/000137560.pdf#search='%E5%B2%A1%E5%B1%B1%E5%B8%82%E9%B3%A5%E7%8D%A3%E8%A2%AB%E5%AE%B3%E9%98%B2%E6%AD%A2%E8%A8%88%E7%94%BB'>, accessed October 20th 2016).

櫻庭知帆(2016). 岡山理大に生息するニホンアナグマの予察的研究. 平成27年度 岡山理科大学理学部動物学科 卒業研究発表要旨集: 30.

Sakuraba, C., Kobayashi, S., Takasaki, H. (2016). A golden soldierfly, *Ptecticus aurifer*, hints suitable locations for automatic trail camera targeting Japanese badger. *Naturalistae* 20: 57-60.

清家ありさ・井上 愛・小林秀司(2014). 岡山市街地付近の森林にまで進出し始めたニホンジカ. *Naturalistae* 18: 53-55.

高槻成紀 編・山極寿一 編(2008). 日本の哺乳類学 2 中大型哺乳類・霊長類. 488pp. 東京大学出版会.

(2016年12月5日受理)